

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人いわみ福祉会		
事業所名	グループホーム モモ		
所在地	島根県江津市敬川町1230-1 (電話) 0855-53-5002		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟町43番地		
訪問調査日	平成21年9月20日	評価確定日	平成21年9月30日

【情報提供票より】(平成21年 9月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 人, 常勤換算5,6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	150,000 円			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	200 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年 9月 7日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83,6 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	能美医院、済生会江津総合病院、多田歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小規模多機能型居宅介護事業所を併設した開設2年目のグループホームである。地域の強い要望の中でこのホーム設立となった。法人の理念のもとにグループホームの理念を職員で考え、住み慣れた地域で安心して、楽しみと喜びのある生活を過してもらえるよう支援していきたいと取り組んでいる。広い敷地には芝生の庭が広がり、施設内も明るくゆったりとしたスペースがとられて利用者は落ち着きのある生活していた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で日頃のケアを振り返りながら自己評価票を記入し、管理者がまとめた。改善課題についての具体的取り組みはこれからである。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 二ヶ月に一回開催している。活動状況やホームでの行事や利用者の暮らしぶりなどを報告している。運営推進会議メンバーの提案や行方不明時の対応、認知症の勉強会などについて意見や提案、要望が出され改善に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族との面会時や運営推進会議で相談や意見を聞くようにしている。意見苦情の窓口、意見箱の説明もしているが、あまり意見が出てこない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩の時、挨拶をしたり話をしたり、とれたての野菜を頂いたりすることがある。公民館の文化祭や敬老会、夏祭りなどに参加している。また地域の保育園児との相互訪問や大正琴、ぬりえボランティアなどの訪問があり地域との交流が広がってきている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の「地域のつながりを大切に」をもとに、グループホーム独自の理念を職員と一緒に作った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議の時、理念に沿った目標を決めて日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時に挨拶や会話を交わし、時には野菜を貰ったりする。公民館の文化祭、敬老会、夏祭りに参加したり、保育園との相互訪問、ぬりえボランティアなど積極的に地域の人たちと交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員がそれぞれに自己評価票を記入し管理者が中心となってまとめた。	○	職員全員で改善課題を共有し計画的に改善に取り組まれることに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、活動状況や行事予定、利用者の様子など報告している。出席者から提案があったり行方不明時の対応など意見交換をしサービス改善に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は平素より担当者と行き来し、連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一回、担当者から利用者のホームでの暮らしぶりの手紙や写真と一緒に金銭報告を送付している。また家族の面会時、遠方の方は電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情窓口の説明はきちんとしている。意見箱もあるがあまり意見が出ない。	○	家族の意見を積極的に聞きだす取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設してこの一年間離職はない。異動時には暫くホームに顔を出してもらったりして、利用者への影響を最小限に抑えるよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修に力を入れ取り組んだ。外部研修は希望や段階に応じ実施している。研修後は職員会議にて伝達し共有している。	○	さらなる取り組みに期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修会などを通じて交流している。圏域でグループホーム連絡会づくりの準備が始まっている。	○	同業者とのネットワークづくりに期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の気持ちを大切に家族と相談しながら、利用者にあった方法で対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から習慣や、料理の作り方など教えてもらったり、畑の世話や片付け、掃除など出来る範囲での協力を得ている。学んだり、元気を貰ったり支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活する中で利用者の声をよく聞くようにしている。言葉や表情、行動から思いや意向の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画担当者が利用者や家族の思いや意向を聞き作成している。	○	利用者や家族、職員など関係者の意見や要望を取り入れ、話し合い介護計画を作成されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化がある場合は見直しをしているが、定期的な見直しは行なわれていない。	○	定期的また現状に即した見直しと、家族への報告を望む。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族が多いので、墓参り、自宅などへの外出や、受診、通院時の同行など状況や要望に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医院の受診となっているが、利用者本人、家族の希望があればかかりつけ医の受診支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針がある。家族、職員、かかりつけ医との連携をとり方針を共有しながら取り組むことはこれからである。	○	さらに関係者と話し合いを重ね、重度化や終末期に向けた対応を検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	新人研修の中で徹底している。職員は日々の言動に注意し、利用者の尊厳を大切にした声掛けや対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の「ゆとりをもって接します」をもとに一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に盛り付けや配膳、茶碗拭き、テーブル拭きなどしている。職員も同じテーブルを囲んでゆったりと食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングにあわせて毎日でも夜間でも入浴を楽しむ事が出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・縫い物・畑仕事など一人ひとりの力を活かした役割作りをしている。カラオケ、ビデオ鑑賞、外食など楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者だけで外出できる散歩コースがあり、買い物、ドライブなど、一人ひとりの体調や希望に沿った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。外出しそうな様子を察知したらさりげなく声をかけたり、一緒についていくなど、自由な暮らしを支えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練を行った。火災時には地域に協力要請をお願いしている。	○	備蓄についても出来るところから手がけられたい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取状況を把握している。また定期的に法人内の栄養士から栄養バランスについてアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、リビングは広々と確保され、畳のスペースやソファが置かれ居心地よく過せる季節感のある空間作りがしてある。利用者はそれぞれが思い思いの場所で時間を過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者の馴染みの物を持参していただく様にしている。仏壇やタンス、家族や利用者の写真等好みに合わせて飾られたり配置され工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。

